

## 退任挨拶

前副会長

沼田敏晴



2012年に副会長という重責をお引き受けして間もなく、中国事業を担当することとなり上海に赴任いたしました。この間も2年間副会長を務めさせていただきましたが、ほとんど協会活動に貢献することもできず大変恐縮しております。唯一、2013年11月に日本知的財産協会海外研修団「中国知的財産制度・法規の研修」の皆様が上海に来られた際に、参加の皆様が現地のお話をさせていただく機会を賜ったことが救いとなりました。中国では各企業の知財活動がしっかりと行われており、知的財産保護に関しての組織だった活動に敬意を表します。

2012年の赴任直後から続く日中関係の冷え込みは依然として好転しておらず、政経分離による経済面での協調努力は図られているものの、日系企業にとっては以前と比べ厳しい状況が続いております。中国の経済状況は、昨年の貿易総額は中国が米国を抜いて世界最大となりましたが、急激な人件費、土地の高騰とともに輸出依存型から内需主導型成長モデルへの転換が急がれています。GDP伸長率は減速したとはいえ7%を超える水準にあり、中間所得者層の急速な増大による消費の拡大が進んでおり、14億の人口を抱える世界最大の市場であることは間違いありません。まさにこれからこの巨大市場をめぐるより厳しい競争が始まっていくことになると思われます。

消費財市場では付加価値商品の購入およびEコマースによる購買が急速に伸長しております。このEコマース上では非正規のC to C商品も大量に販売されており、その中には模倣品も少なからず流通していることも事実です。中国の消費者の方々の品質に対する目は非常に厳しく、模倣品などにより品質問題が起こると自社のブランド、ひいては会社の信用が大きく毀損する危険をはらんでいます。先日、中国でも改正商標法が施行され知財権保護が強化されましたが、自らを守るためには模倣されにくい圧倒的に差別化されたモノづくりを行うことや現地ニーズを先取りしたきめ細やかな商品開発をスピーディに行い、それらの知財権をしっかりと確保することがカギとなることは間違いありません。一方で、中国国内特許は年々膨大な出願がなされており、これら中国語特許に対する自社商品のクリアランスを如何に確保するかということも非常に重要になります。

中国・アジアの人々の日本品質への信頼性は非常に高いものがあります。日系企業として自社のアイデンティティをしっかりと示し、各国の人々に貢献できる特徴のある強い製品を生み出し守るために、その国における法律の十分な理解の下、それを活用した確固たる知財権の確立が不可欠であり、それらをリードする日本知的財産協会の重要性はますます高まってまいります。今後の皆様の益々のご活躍を祈念いたしております。どうもありがとうございました。